

《担当者名》桜庭聡

【概要】

ディプロマポリシーに掲げられた5つの要件を満たすための前段階として脳損傷後の高次脳機能障害の症状と発生機序について理解し、作業療法士として臨床に必要な各症状の評価方法および治療介入について学修する。

【学修目標】

高次脳機能障害に対する作業療法介入が行えるように症状やその発現機序について理解することができる。  
 症状と発生機序、鑑別診断と治療プログラムの立案までの基本的知識を習得する。

1. 高次脳機能障害の症状、発現メカニズムおよび病巣について説明できる
2. 高次脳機能障害に対する評価について説明できる
3. 高次脳機能障害に対する治療について説明できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 高次脳機能障害総論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の構成および成績評価に関するオリエンテーション</li> <li>・高次脳機能障害の定義</li> <li>・脳の解剖学的構造と機能（局在とネットワーク）</li> <li>・脳の側性化（Lateralization）と高次脳機能障害</li> </ul>	桜庭 聡
2	高次脳機能障害の評価と治療 脳画像と高次脳機能障害	高次脳機能障害の評価および治療の原則 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高次脳機能障害の評価プロセス</li> <li>・高次脳機能障害における評価、治療の阻害要因</li> </ul> 脳画像の臨床的捉え方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・脳に関連する画像（CT・MRI）の基礎的読影方法</li> <li>・画像情報の臨床応用</li> </ul>	桜庭 聡
3	外傷性脳損傷と高次脳機能障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外傷性脳損傷の病態</li> <li>・外傷性脳損傷後の高次脳機能障害</li> <li>・外傷性脳損傷に対するリハビリテーションアプローチ</li> </ul>	桜庭 聡
4	注意障害の評価と治療 半側空間無視の評価と治療	注意障害の評価と治療 <ul style="list-style-type: none"> <li>・全般性注意障害の症状特性</li> <li>・全般性注意障害における各種神経心理学的検査、観察評価</li> </ul> 全般性注意障害のリハビリテーションアプローチ <ul style="list-style-type: none"> <li>・半側空間無視の評価と治療</li> <li>・半側空間無視の症状特性</li> <li>・半側空間無視における各種神経心理学的検査、観察評価</li> <li>・半側空間無視のリハビリテーションアプローチ</li> </ul>	桜庭 聡
5	記憶障害の評価と治療 認知症の評価と治療	記憶障害の評価と治療 <ul style="list-style-type: none"> <li>・記憶障害の症状特性</li> <li>・記憶障害における各種神経心理学的検査、観察評価</li> </ul> 記憶障害のリハビリテーションアプローチ <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の評価と治療</li> <li>・認知症の症状特性</li> <li>・認知症における各種神経心理学的検査、観察評価</li> <li>・認知症のリハビリテーションアプローチ</li> </ul>	桜庭 聡
6	視覚モダリティーにおける失認と関連症状の評価と治療 失認・失読・失書の評価と治療	視覚モダリティーにおける失認と関連症状の評価と治療 <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚失認および関連症状の症状特性</li> <li>・視覚失認および関連症状の各種神経心理学的検査、観察評価</li> <li>・視覚失認および関連症状のリハビリテーションアプローチ</li> </ul> 失認・失読・失書の評価と治療	桜庭 聡

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・失認・失読・失書の症状特性</li> <li>・失認・失読・失書の各種神経心理学的検査、観察評価</li> <li>・失認・失読・失書のリハビリテーションアプローチ</li> </ul>	
7	失行の評価と治療 失語症の評価と治療	失行症の評価と治療 <ul style="list-style-type: none"> <li>・失行の症状特性</li> <li>・失行における各種神経心理学的検査、観察評価</li> <li>・失行のリハビリテーションアプローチ</li> </ul> 失語症の評価と治療 <ul style="list-style-type: none"> <li>・失語症の症状特性</li> <li>・失語症における各種神経心理学的検査、観察評価</li> <li>・失語症のリハビリテーションアプローチ</li> </ul>	桜庭 聡
8	遂行機能障害の評価と治療 中間まとめ	遂行機能障害の評価と治療 <ul style="list-style-type: none"> <li>・遂行機能障害の症状特性</li> <li>・遂行機能障害における各種神経心理学的検査、観察評価</li> <li>・遂行機能障害のリハビリテーションアプローチ</li> </ul> まとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んだ高次脳機能障害と脳画像との関係性</li> </ul>	桜庭 聡
9	脳画像の読影	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応用的な画像読影方法とその臨床応用について</li> </ul>	桜庭 聡
10	外傷性脳損傷の評価・治療の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の事例を通じた外傷性脳損傷の評価、治療の実際について</li> </ul>	桜庭 聡
11	半側空間無視の評価・治療の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の事例を通じた半側空間無視の評価、治療の実際について</li> </ul>	桜庭 聡
12	記憶障害の評価・治療の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の事例を通じた記憶障害の評価、治療の実際について</li> </ul>	桜庭 聡
13	視覚モダリティーにおける失認の評価・治療の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の事例を通じた視覚失認等の視覚モダリティー関連失認の評価、治療の実際について</li> </ul>	桜庭 聡
14	失行症の評価・治療の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の事例を通じた失行症の評価、治療の実際について</li> </ul>	桜庭 聡
15	遂行機能障害の評価・治療の実際 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の事例を通じた遂行機能障害の評価、治療の実際について</li> <li>・これまでの事例の総まとめ</li> </ul>	桜庭 聡

#### 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

定期試験100%

#### 【教科書】

能登真一 他 編 「高次脳機能作業療法学」 医学書院 2012年

石合純夫 著 「高次脳機能障害学 第2版」 医歯薬出版 2012年

#### 【参考書】

山鳥 重 他 編 「高次脳機能障害マエストロシリーズ」 医歯薬出版 2007年

三村 将 他 編 「高次脳機能障害マエストロシリーズ」 医歯薬出版 2006年

鈴木孝治 他 編 「高次脳機能障害マエストロシリーズ」 医歯薬出版 2006年

鈴木孝治 他 編 「高次脳機能障害マエストロシリーズ」 医歯薬出版 2006年

長崎重信 他 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト「高次脳機能障害障害作業療法学 第2版」 メジカルビュー社 2016年

#### 【備考】

資料（レジュメ）の量が多い講義であることに留意すること（ファイリング等）。

既習の内容について解説する時間が少ないため、不明な点は復習や担当教員への質問などを積極的に行い解決すること。

#### 【学修の準備】

教科書、また参考書を含む関連図書、文献を用いて予習・復習すること。

事前学修と事後学修にそれぞれ80分を費やすこと。

これまで学修した脳に関する解剖学（脳葉、脳溝、脳室の形等）や生理学（神経系）についてしっかりと復習しておくこと。

本講義は高次脳機能障害作業療法学演習の基礎となる内容を取り扱う。特に高次脳機能に関する評価は重要な項目であるため、重点的に予習・復習をして講義や試験に臨むこと。

後半（第9講以降）は各高次脳機能障害について事例を通してさらに深く学ぶ。そのため、前半で行った講義の内容をしっかりと復習しておくこと。

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

**【実務経験】**

桜庭聡（作業療法士）

**【実務経験を活かした教育内容】**

身体機能障害領域の医療機関における実務経験、及び高次脳機能障害に関する研究経験を基に、臨床での高次脳機能の評価及び介入の実際を踏まえた講義を行う。